

南岸5自治会交流事業DVD「防災の絆」上映 自主防災活動 Presentation 概要

南岸5自治会代表・留原自治会長：荒井 寛
自主防災発表担当
小和田自治会長：青木 次郎
映像作成・撮影アシスタント
中村自治会長：御法川 慎司
高尾自治会長：高水 攻
網代自治会長：中里 稔
南岸5自治会交流事業実行委員一同

本日の発表は、南岸5自治会が交流事業として制作した映画「防災の絆」の上映です。

映画は、網代、高尾、留原、中村、小和田の5自治会の各地区用に編集されたものと全体編からなり、今回は全体編をさらに短縮した版をご覧ください。この映画は昨年10月13日の交流事業で上映する予定でしたが、台風19号接近の為、急遽中止致しました。映画には、台風19号による被災状況や自治会の対応、「市のハザードマップ」を空から見る「ドローンによる空撮」などが収められており、台風被害にあう前の秋川の様子も見る事が出来ます。

【映画「防災の絆」の概要：ナレーション台詞】

- ▶ 予告編 1：台風19号による被害状況と自治会対応のダイジェスト。
- ▶ 予告編 2：防災に向けた自治会活動や防災訓練のダイジェスト。
- ▶ 本 編

☆「南岸5自治会：防災の絆」

大きな災害が起きた時には、「網代・高尾・留原・中村・小和田」は秋川に架かる橋が全て通行出来なくなって孤立する恐れがあります。そのため急遽2年前に秋川南岸5自治会交流事業が組織されました。まずは5つの自治会員が一堂に会してコミュニティーの輪を広げ交流の場を作る第一歩から始めました。コミュニティーの輪を広げ人の繋がりがりや地域のまとまりをより強くする「連携の絆」は災害時の相互応援や情報共有など、様々な面での連携の横糸です。

交流事業の第1回目は、各自治会の防災・防犯などをテーマに積極的な情報交流を図りました。留原の高山氏を講師に迎え「災害から学ぶこと」と題して貴重なお話もしていただきました。2回目は、小峰台運動公園に270名が集まって大声コンテストや輪投げ大会、履き物飛ばし、大じゃんけん大会などの自治会対抗ゲームで親睦を図りました。バンド演奏などのアトラクションや焼き鳥や焼きそばなどの模擬店も開かれ、とても楽しい交流事業になりました。

☆「ドローンによる空から見た秋川」

ハザードマップの危険地帯をはじめドローンで映像化しました。空から立体的に危険地帯を見てみようという試みです。私たちの故郷、上空からはどんな風に見えるのでしょうか。画面右上から盆堀川が秋川に合流しています。ここは小和田地域西側の境界になります。秋川沿いに遊歩道が見えますが、戸倉の久保川原地区に通じています。

リバーティオが見えます。山側の山林は、土砂災害警戒区域で土石流と急傾斜地崩壊地域に指定されています。沢戸橋上流から小和田橋までの秋川沿いは、小和田グラウンドを含め5m未満の浸水区域に指定されています。右岸側の佳月橋から小和田橋までは、土石流のイエローゾーンに指定され、佳月橋から上下流域は0.5～5.0mの浸水地域に指定されています。第二紫水園、小和田グラウンド、堰から下流へと下ります。

秋川が東から北へ曲がるところが台六天と呼ばれ、留原地区になります。崖地はイエローゾーンに指定され下流には中村地区のあゆみ橋や河川公園があります。

中村地区は秋川が大きく蛇行してできた大地のような形状で、突き出したように位置しているため、豪雨による洪水などの災害時には予測しがたい状況になることが考えられます。川底をえぐるように勢いを増す濁流には、どんなに頑丈な秋川橋でもひとたまりもありません。その流れが、第1・第4ブロックに押し寄せダムのように嵩を増しながら堤防を一気に押し上げる可能性が大きいと言えます。第4ブロックの堤防終点に設備している排水ポンプも大洪水時にはとても排水が間に合いません。豪雨災害時にはできるだけ早い時間での自治会館への避難が必要になります。

秋川南岸地域である小和田、中村、留原、高尾自治会、増戸地区の網代自治会の避難所の設置は急務です。災害時や避難の必要があるときは、秋川に架かる橋を渡って五日市や増戸の小・中学校、地域交流センターなどの避難所まで行かなければなりません。

秋川に架かる橋が崩落した場合には完全に孤立してしまいます。物資を運ぶ手立てがない南岸地区では、どこかにアルファ化米やジャッキ、ホイッスル、毛布などの備蓄をする必要があります。南岸地域の避難所として堅牢な高尾自治会館を活用する案を住民の安心・安全に直結する大きな課題として市に強く要請しています。

あらためて、豪雨の時の水の流れや崖崩れなどの予測、未曾有の災害に対するしっかりとした防災の備えを早急に構築することが必要であると強く感じました。

今回のドローン撮影では、夏の撮影ということで樹木が多く繁っており、上空からの危険箇所の詳細を確認することはなかなか困難でした。

網代地区は全体の8割が市街化調整区域で、ハザードマップでは土石流の発生の危険地帯を多く抱え、がけ崩れが予想される急傾斜地の多い地域です。

大自然に抱かれたこの故郷を愛する私たちは、今、「自然との共存」のお手本を示さなければなりません。日々、大地の鼓動を感じながら災害と向き合い、子孫代々、歴史あるたたずまいを大切に、手を取り合って「防災の絆」を繋いでいくことが必要です。

☆「防災の絆」

人はいつか一人になります。そんな時こそ孤立しないための「地域の絆」が大切です。その絆は、地域行事に積極的に参加して、はじめて築かれるものであると思います。

これからの自治会活動の中心は防災への備えであり、安心・安全な地域づくりです。

その為に、とても大切なことは、ご近所のお付き合いやコミュニケーションづくりです。

地域の「絆」を強くして様々な事態に対応できる横糸・縦糸を強く繋ぎ続けることが何よりも大切であると思います。これからも「できる時には手を貸して、できなくなったら手を借りる」そんな当たり前のことができる自治会を目指していきたいと思います。

それこそが「自治会のあるべき姿」であり自治会に入会していると、自治会員の皆さん一人ひとりが確信しているのではないのでしょうか。

私たちは宇宙の歴史に比べると、とてもとても小さな存在ですが、命の連鎖で結ばれたかけがえのない「防災の絆」は30年後、50年後、100年後、そして永遠の未来に「経験と智慧」を繋ぎ、子どもたちとともに歩むこの一歩は未来に繋がる太い糸であると確信いたします。

～小和田花火大会より～

先人の知恵と努力を学び、地域・隣人の「絆」を大切に、未来を担う子どもたちへの「バトン」を、しっかり繋いでいきたいですね。自治会活動がその要になっていくことを切に願います。

～エンディングロール、「防災の絆」挿入曲～

(令和2年2月 日)